鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。

清水　香 講師（教育学部 美術科）

Profile

2000年 3月　倉敷芸術科学大学芸術学部　卒業
2002年 3月　信楽窯業技術試験場　素地焼成科・釉薬科　修了
　　陶芸家　森正氏に師事
2010年 3月　金沢美術工芸大学大学院博士後期課程修了　博士号（芸術）取得
2010年10月　教育学部講師
2013年 4月　同　准教授（予定）
▶主な受賞 … 国際陶磁器展美濃陶芸部門 銀賞、セラミックアートFuji国際ビエンナーレ 奨励賞、長野県美術展 八十二文化財団賞、キリンアートコンクール 特別賞　ほか入選多数

― 土の素材を活かし、土との“対話”の中で表現

陶芸には様々な技法がありますが、私は土そのものの美を探求しながら、自分の観念を土に投影して表現することを研究課題としています。この研究に至ったきっかけは、ろくろで制作中、手についた余分な泥を桶の縁でこそぎ落としたときに、そこにできた小さな土の造形美でした。残るのか捨てられるのか生と死の瀬戸際である小さな土の塊に、はかない美しさや強いエネルギーを感じました。それこそが、長年私の中で蠢いていて表に出したかった「何か」だったのです。そこから、現在の制作へとつながっています。

― 制作する自分の存在理由を突き詰める

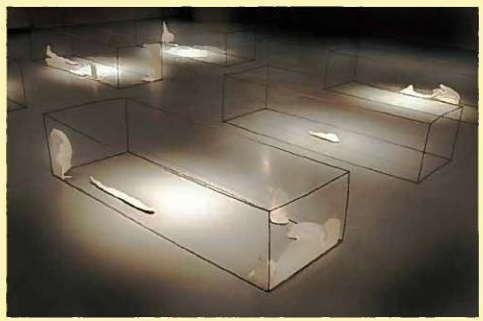
大学院の時、内面的なものを表現したい欲求がありつつも、その技法を見い出せず試行錯誤の日々でした。あるとき、制作した作品を人の真似だと酷評され、挫折を味わいました。そこで自分とは何か、なぜつくるのか、自分の人生を見つめ直していく過程で、自分には死へのトラウマがあることに気づいたのです。自分の心の内を土によってさらけ出すことで、死への恐怖から「生」を伝えるべく作品を生み出すことができました。生と死を同一の場面に表すことで生の確かさを初めて明確にできたのは、まさにこのときでした。

― 制作に必要な「引き出し」を増やすために…

私にとって陶芸は、生きることそのものですのでオンとオフをあまり明確に切り替えてはいないです。例えば、旅行が好きですが、五感を使ってそれぞれの土地の自然、食、人、建物、においや風など、すべてのものを体感し体に記憶させています。また、制作の素材として気になった物のラインや様々な物の質感など、必ず写真に収めています。これらがいつか制作で必要になったときに、自然と引き出しから出てくるのです。

― これから社会に出て行く若者、研究者を目指そうとする方へのメッセージ

何をやりたいのかわからないと悩んでいるよりも、できるだけいろいろなものに興味をもって、とにかくすべてやってみる。自分の「引き出し」が多いほど、本当に自分の好きなことを見つけるときに役立つし、人生の幅を拡げてくれます。



<生08-1>
2008年／第8回国際陶磁器展美濃陶芸部門　銀賞受賞作品シリーズ
実物大の棺を模した針金の枠の中に、土の流動性を活かして生の象徴とした白い磁土を配置することで、隣り合わせにある生と死を表現